

勸歌勇しく職工門を出で南本町より電車線路に況ひて榮町に出で各新聞社を歴訪の上、川崎造船本工場に到り造船工作部正門を訪ひ工場内に入らむとせしに警戒中の騎馬巡査及び多数の警官列を作して其前に立塞がり入場を阻止せる爲め、行列は己むなく正門前を通過して電気工作部表門に到りし時、同所の職工側委員は直ちに開門し行列を迎へ入れたる。葎合分工場側委員は本工場の委員等と會合、策戦上の事に關し打合せする處ありたり。

斯くて午後二時葎合職工團は工場に歸著、大竹總指揮、楠、玄間等の諸氏交々高臺に上りて同日の示威運動が最も秩序整然と行はれたる事を稱揚し、尙今後も益々自重して初志の貫徹に努むべく激勵して解散、一同は各持場に歸りて半休業状態を以て同日を終れるが、當日警察側に於ては萬一に備ふる然め葎合署より中出警部以下數十名の警官出張して場の内外を嚴重に固めたり。

兵庫工場に於ては同日も例の如く鑄鋼課は依然たる怠業状態にありて出勤せるも作業に就かず、一方入場せる鐵工課も同様なる状態にありたるが、同九時頃約千五百名は俄に隊伍を整へて繰出し、臺灣製糖會社前を抜けて梅ヶ香方面に出で各所を練り廻りたる後遂に兵庫應取工場に押寄せ盛に喊聲を擧げ少憩の後、労働者の萬歳を三唱して引返し湊川勸業館に向ひしが、此の報に接したる須磨署よりは木村司法主任十数名の制服巡査を従へ出張し附近を警戒せり。午後二時頃一行は勸業館に引揚げ、俄に演説會を開き紫田(富)行政、阿部等の諸氏猛烈なる意氣を以て演壇に立ち熱辯を揮ひ同五時頃

解散したり。

此日、本工場造機部内製罐工場にては他工場と同一なる要求を提出することとなり午後二時代表委員は會社側重役に會見せり。即ち職工側委員大内、淺野、佐藤、澤田、藤田、兒島の諸氏にして製罐部職工一同に送られて會社正門より繰り込み、例の如く第三應接室に於て永留、山本兩重役と會見、工場委員制そのその他八箇條の要項を別記せる要求書に職工の連署を添へて提出し大内委員より「前提は是を畧し、例に依りて例の如く宜しく御審議ありたし」と申出でたり。永留氏は要求内容を通覽したる後、數次の會見に於て爲せると同一の態度にて、「最初提出したる電正會の要求と同一の如けれど數次聲明せるが如く、社長不在なれば留守中如何共計らひ難し。歸朝まで待たるゝ方諸君の爲に得策なりと信ず」との意味を述べ頻に要求保留を勧めたるも、職工側委員は「待ち得らるゝ如くんば各工作部の後を享けて輕々に提出するが如き徒事をなさす。川崎の職工萬餘の焦眉に迫れる重大問題なれば切に再考を求む」とて容易に要求を翻へさず、重役との間には依然押問答續き、遂には「重役は誠意がない」「いや充分な誠意を以て答へて居る」「無責任だ」「責任があればこそ社長の歸朝を待てと云ふのだ」等の言が應酬されしが、委員は更に態度を變へて「此の爭議解決のため重役の方は私達の家を御覽下さる事が最も好い方法だと思ひます」と米代、醬油代等生活費の計算を爲し窮狀を訴へて突込みたるも、結局會見一時間半に及んで要求は拒絶せられ會見を終りたり。製罐工場の職工及各工